

英語 授業づくり講座 ～南国市立香南中学校～

「根拠や理由を明確にして、まとまりのある文章を書こう」

発行
令和3年8月6日
中部教育事務所



単元 第3学年 PROGRAM 3 A Hot Sport Today (開隆堂)

領域別目標

「読むこと」 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

「書くこと」 ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

単元目標

スペクトラムスクールの生徒達とメールで意見交換するために、人種差別などの社会的な問題について、資料を読んで要点を捉えたり、考えたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書いたりすることができる。

単元計画 (全8時間 本時6時間目)

時	主な活動内容
1	日本の伝統的なスポーツについて紹介する文を書く
2	バスケットボールリーグについて書かれた教科書本文を読んで感想等を書く
3	物部川のごみ問題について書かれた資料を読んで自分の考えを書く
4	高知県の人口減少について書かれた資料を読んで自分の考えを書く
5	スポーツにおける人種の平等について書かれた資料を読んで自分の考えを書く
6	スポーツにおける男女の平等について書かれた資料を読んで自分の考えを書く
7	オリンピックにおける人権について書かれた資料を読んで自分の考えを書く
8	ゴール活動



授業者 北 裕子 教諭

トピックを変えながら
言語活動を繰り返し、
資質・能力を育成する

身近な話題から徐々に世界へ

パフォーマンステスト

オリンピック・パラリンピックの理念について書かれた英文を読み、考えたことやその理由、これから自分がしたい事などを、英文を引用しながら書く

本時の展開

	活動内容
1	Small Talk+ 1 minute chat アメリカの大学チームのバスケットボール動画を見て、ペアで1分間意見を交流する
2	Reading バスケットボールにおける男女間の不平等に関する資料を読んで、内容をマッピングして整理する
3	Speaking 1 問い①についてペアで伝え合う 中間評価 1 全体共有→再構築
4	Speaking 2 問い②についてペアで伝え合う 中間評価 2 全体共有→再構築
5	Speaking 3 ①②をまとめてペアで伝え合う
6	Writing 発話内容を再構築したものを整理して書く
7	Sharing 書いたものを読み合う、または全体共有する
8	Reflection 振り返りを書く

伝えたい内容を、読み手によりよく伝わるような構成に整理して伝えさせる

☆まず視点に沿って Speaking させる

問い①
How do you feel?
What information did you get?

問い②
What do you think of this situation?
What can we do?

①と②の内容をつなげると、全体としてまとまりのある Writing ができる



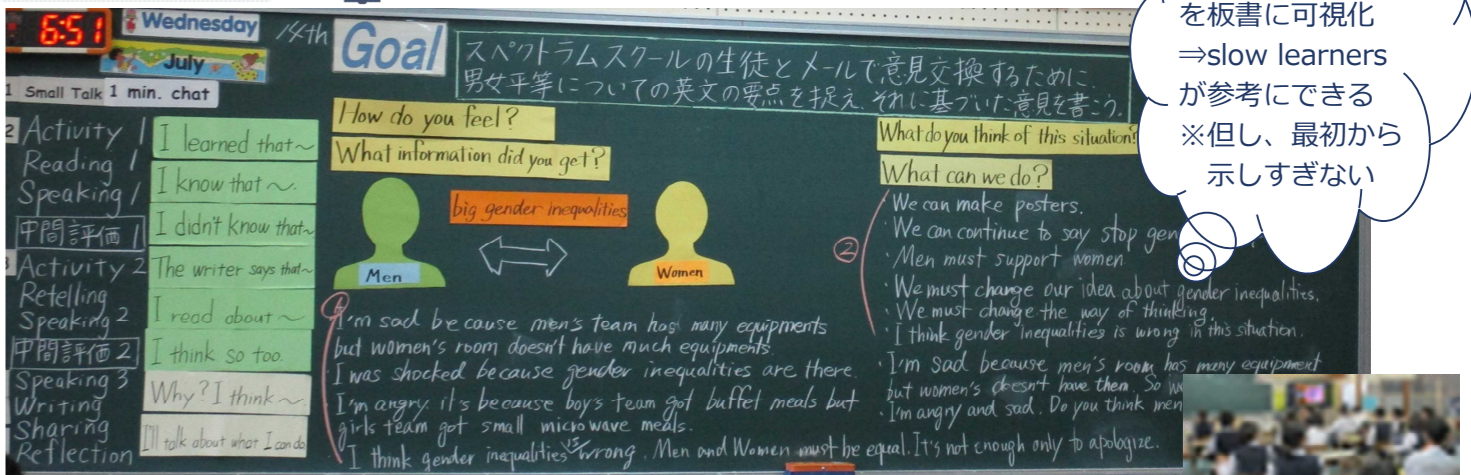
教材研究会

「見方・考え方」を働かせるために



○日本の生徒がその問題についてどう思うか、アメリカの生徒が知りたがっている、という場面設定にして、単元の途中でも相手からのフィードバックがあれば、より自分事として捉え、相手意識を持って考えられるのでは？
⇒目的や場面、状況等が明確になるほど「見方・考え方」が働く

授業研究会



中間指導で生徒から引き出した表現を板書に可視化
⇒slow learnersが参考にできる
※但し、最初から示しすぎない

香南中学校の授業づくりのポイント

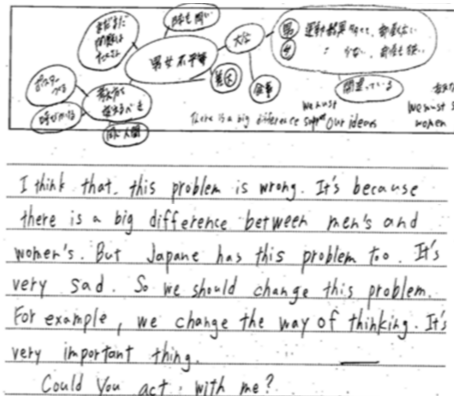
①教材の効果的な活用

スポーツを扱った教科書教材を基に、今年開催されるオリンピックにおける人権問題という、今こそ子供達に考えてほしい社会的なテーマを取り上げ、以前から交流のあるアメリカのスペクトラムスクールの生徒と、メールで意見交換する、というゴールを設定している。教科書教材と、実際にある社会問題を扱った読み物教材とを組み合わせ、生徒の学びが深まるよう工夫されている。

②活動と指導を繰り返す

1. 活動と活動の間には中間指導を行う。
 2. 授業後は writing 文を集めて添削する。
 3. 生徒が書いた良い表現をワークシートにまとめて次時に返す。
- このような「活動と指導のサイクル」を単元を通して繰り返すことで、生徒は主体的に思考し、書く力の育成が着実に図られている。

↓生徒のワークシート



③単元を通して「見方・考え方」を育成する

単元計画には、それぞれの言語活動でどのような発話を行うことをねらいとするか、生徒の姿を具体的に示すとともに、下のように、「見方・考え方」を働かせる生徒の姿も具体的に示している。この事により、どのような指導を行うか、また、どのような生徒の姿を見取って中間指導を行うかが明確になる。単元を通して、意図的に指導を行い、生徒の「見方・考え方」を成長させることが重視されている。

「見方・考え方」を働かせる生徒の姿 ～単元計画より～

- 学んだことだけでなく、自分の経験や思いを加えて伝えると相手に伝わりやすい。
- 仲間の意見を聞いて自分の意見を見直すと、考えが広がり、深まる。
- 主題文・支持文・結論文の構成で、事実や具体例を添えると説得力が増す。



参加者の声

- ◇社会的な話題について、生徒が考えたいような読み物を自作されており、生徒に与える問いも工夫されていて、「読む→書く」ための指導が大変参考になった。
- ◇書く活動でも、友達とのやりとりを通して、考えをまとめ、より良い表現に再構築させていくことが大事だと思った。
- ◇付けたい力を明確にして、中間評価など、意図的に指導を行うことで、生徒の力が積み上がっていくように仕掛けたい。

